

サカタのタネにおける取り組み事例研究と工場見学

2013 年に創業 100 周年を迎えた(株)サカタのタネの長後試験場に伺い、品質管理の取組事例を紹介いただくとともに、試験農場およびハウスを見学させていただきました。

長後試験場は、昭和 35 年に野菜の育種農場として開設され、広さは 4 ha でそのうち 2.6ha を試験栽培に使用しており、露地と 27 棟のビニールハウスで約 2 千件の育種検査を約 20 名で行っている。

種子の品質検査は、実際に種子を播いて発芽の状況をチェックし、引き続き育てて生育の状況や成果物の形など品種の ID を検査する。

種子品質のチェック項目は以下の通り。

- ① 純潔度：種子の中にゴミや異種子はないか。
- ② 発芽性：現場で求められる発芽能力かどうか。
- ③ 遺伝的純度：品種の ID および異型の混入は。
- ④ 種子病理：種子伝染性病害はないか。

栽培は周辺住民の迷惑にならないよう、法令で指定された農薬を使用して行なわれている。ちょうど、成果物としての育ち具合のチェックを次週に控えたニンジンがロット番号別に植えられていた。イベントなどで使用する花苗の栽培も行っており、本来の開花時期でない時期でも開花するよう、高度な栽培管理も行なわれている。

長後試験場は、普段は見学者を受け入れていないが、協会の生産性向上委員会のメンバーということで実現した貴重な見学会となった。

